

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人 いわみ福祉会		
事業所名	グループホーム モモ 1番街		
所在地	島根県江津市敬川町1230番地1		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果市町村受理日	平成25年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社応援団
所在地	島根県浜田市相生町3948-2相生塚田ビル1階103号
訪問調査日	平成25年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度より各ユニット1名ずつ職員増員がありグループホームの行動計画にもある「笑顔」「家族とのつながり」をキーワードにあげ、より利用者目線での関わりを重視し、日々業務にあたっています。昨年度まで難しかった個々の関わりについては出来る限り側で見守り、思いを汲み取ったり、また、少しの支援でなるべく本人の力で色々な事が出来る様、一人一人に向き合っています。また、外出についても可能な限り本人の意向に沿って実現する事で利用者の笑顔もずいぶん増えた様に感じています。利用者御家族様とのつながりについては電話や手紙等での近況報告や病院受診、行事参加等で気軽に何でも意見を交換し合える様な関係が少しずつではありますが出来ている様に思います。この繋がりを大切にし、利用者、御家族様共にモモでの生活が安心、安全なものである様に思いを汲み取りケアにつながる様にしています。そして一番のアピールポイントは何と云っても食事です。法人内の栄養士が作成した献立を参考にしながら利用者の希望食もたくさん盛り込みメニュー作りを一緒に行っています。一つ一つが全て手作りでモモの畑で採れた季節の食材をふんだんに取り入れたりして食事の時間が楽しい時間になるよう日々工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成25年8月の豪雨災害の時には夜中の集中豪雨により事業所の敷地内まで水が押し寄せた。夜勤の職員と法人の他施設職員の助けもあり、利用者は普段どおりの生活を送ることができた。高台にある駐車場は日ごろから近所の人になにかあれば使ってくださいと声をかけており、実際に車を避難させる住民もあり、年々地域の方に事業所の存在が浸透し、つながりも強くなっている。地域密着の意義を踏まえた理念を大切にし、管理者を中心に職員は質の高いサービスを提供している。利用者一人ひとりの状態に応じた支援に繋がるよう全員で利用者の生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づきグループホームの行動計画「利用者・家族との繋がり地域との連携を大切に笑顔あふれる居場所を作ります」を掲げ、職員会議や研修などで振り返りの機会を持ち実践に繋げている。	利用者の変化を細かく伝え、家族と一緒に利用者のケアについて考えている。利用者の笑顔のために個別の買い物や外出の希望などに力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事へ積極的に参加している。施設で開催する夏祭り等では婦人会から出店をして下さり交流をしている。また、保育所との交流も行っている。	地域行事への参加の他、ぬり絵や切り絵・歌のボランティアの訪問がある。生活空間を大切に、利用者が楽しめるように交流場所など考慮しながら実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の人材が地域の集まりに出掛け、認知症についてのお話をさせて頂いている。キャラバンメイトの活動等要望があれば、いつでも行ってきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、事業所内にて開催しており、意見を参考にし、行事計画に役立てたりサービスの向上に繋げる様にしている。	ヒヤリハットや事故報告など施設の現状を細かく報告することで、助言や意見をもらい運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の方に運営推進委員のメンバーになって頂いている。サービスの実情や取組等の理解をして頂く等協力関係を構築している。	利用者の小さな困りごとでも気軽に相談出来、助言を頂いたり、対応してもらっている。情報を共有できるよう連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危機管理委員会(身体拘束委員会)が中心となり、「不適切ケアをなくそう」と毎月目標を決め、全職員に伝達し、月末には意識調査を実施することでより良いケアの実現に向けた取り組みを実践している	転倒事故があった時にはすぐに要因をさぐり、対応を考え報告書を作成し、以後徹底することで身体拘束をしない自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	危機管理委員会(身体拘束委員会)が中心となり、「不適切ケアをなくそう」と毎月目標を決め、全職員に伝達し、月末には意識調査を実施することでより良いケアの実現に向けた取り組みを実践している。施設内・外の研修に参加し職員が学び、気付ける機会が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1番街では自立支援事業や後見制度を利用されている方はおられないが、職員の知識として外部研修などで学ぶ機会は設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的な面談の機会を持ち不安や疑問点について十分な説明をするよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際は近況報告をし意見や要望を聞くようになっている。また、面会が難しい家族には手紙や電話で近況報告し、意見や要望をもらえるような声掛けをしている。	月に一度は家族が来所し直接会って利用者の体調変化などをこまめに伝えている。家族等から出された意見や要望はサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のGH会議や全体会議を設け職員の意見や提案を聞き、代表者会議にて意見を報告し反映させている。	併設の小規模多機能と合同の委員会があり、職員が主体となって活動している。ミーティングなど職員が話しあった意見はグループリーダーを通じて反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告制度、勤務状況表を法人全体の取り組みとして導入。代表者が確認でき、就業環境の整備に反映できるシステムを構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目標や研修希望をアンケート調査し外部、内部研修計画を策定。職員の質の向上、事業所の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村で行われる各種部会への参加や、外部研修を通じて他施設の職員との交流等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とゆっくり関わりを持つ時間を作るようにしている。その中で利用者様の思いを聞き安心して過ごして頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心して頂ける様しっかりと思いを受け止め、意見・要望等に耳を傾け信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の生活歴、生活環境などしっかりと話を聞き、ご本人・ご家族の望まれる支援に答える様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、出来ない事を把握し、声掛けし一緒に作業をして頂くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂ける機会を作り、本人とご家族、職員が共有できる時間を持つよう努めている。定期的な病院受診が必要な利用者に対しては家族の協力も得られその時間で自宅に帰られたりして家族との時間を作られたりもしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方が面会に来やすい環境作り、家族の宿泊や家族との外泊、外出など自由に作って頂いている	家族の協力を得ながら馴染みの美容院への外出を続けている利用者の他、自宅の近所の方が訪ねて来られる利用者など馴染みの関係を継続できる重要性を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少ない人数の為皆で仲良く生活し、楽しく食事や作業が出来る様に席の工夫をしている。利用者様全員が参加できるような行事やレクなどを考え交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続して関わりを必要とし相談や支援を求められる方については応じていきたいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人や家族との対話を通じ意向や希望の把握に努めている。困難な方については表情や行動から思いをくみ取る努力をしている。	毎日の様子を職員一人ひとりが記録をとることで様々な気づきがあり、利用者はどういった思いなのか職員で確認し、日ごろの支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人及びご家族と対話する機会を持ち把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	対話、行動観察によりご本人の出来る力、心身状態を見極めるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族との話し合いを通じ思いを把握している。またミーティングを頻回実施し実状に即した介護計画を作成している。	ユニットごとの計画作成担当者が毎週のミーティングなどで他の職員から意見をもらい作成してケア方針につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録の様式を変更し、その日々の利用者状況がより詳しく分かるようにした。また、申し送りノートを活用し職員間の情報共有に努めている。それらを元に介護計画の見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人及びご家族のニーズや意向に留意し柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、近隣住民の方から広報や行事の連絡があり参加の機会に繋げている。夕涼み会では地域の方が出店して頂いたり活動への協力体制が出来てきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を聞き、受診を行っている。また、2週に一度の協力医往診時に状態の報告を行っている。	利用者すべてが内科の協力医の往診を受けている。その他の整形や眼科などは家族の協力や職員の付き添いで希望の病院を受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調不良時には看護師に連絡、相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者や家族との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と話し合い、意向に応じて事業所で出来る事を支援するよう努めている。	開所時に比べると利用者の重度化が進み全介助の利用者もいるが家族や医療機関と連携をとり生活を支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置などについての研修を行い、全職員に伝達を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、緊急時に対応出来るようにしている。また、運営推進会議を通じて、地域の方々にも協力要請を行っている。	8月の豪雨の際はいつ浸水被害が生じてもおかしくない状態であったが、日頃の災害対策を生かし断水や停電への備えを行った。近くの同法人の施設と連携を取り乗り切った。	今回の経験を生かし、職員との話し合いや地域との関わりなどさらに考える機会としてもらいたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室・トイレに入る際の利用者への確認をしている。また、年長者としての敬意を忘れないように努め、言葉遣いや声のトーンに気を付けている。	不適切ケアをなくす為職員主催の委員会が毎月目標を決め、月末には振り返りを行い職員全員が常に意識してケアができるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちを大切にし自己決定しやすい様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを大切にしている。本人の自己決定がしやすい様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族や職員と馴染みの美容室へ出かけている。また、美容室の方に施設に来て頂き散髪する事もある。衣類は利用者と共に選び、好みの服が着られる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に嗜好調査を行い、献立に取り入れたりしている。また、野菜の下ごしらえ、片付け等出来る範囲で参加して頂ける様に努めている。	弁当持参の職員と利用者が同じテーブルに付きお互いに食べているものを話題にすることで食への関心につながり楽しい食事時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量のチェックをし、利用者の状態を把握している。刻み食等個人に合った食事形態を取り入れて提供している。水分については本人の飲みたいものを聞きながら提供し必要な水分量をチェックし健康管理に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂ける様に支援している。また、義歯の方には夜間に洗浄剤等を使用して清潔を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握した上で声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄をして頂ける様に行っている。	時間で誘導したり、排泄のサインを探りながらトイレでの排泄支援を行うことで半数の利用者が布パンツの生活を継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて管理している。乳製品などを摂って頂いたり、食後のトイレ誘導を習慣的にし下剤に頼らないように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を優先し柔軟な対応を心掛けている。	お湯を頻回に入れ変え気持ちよく入浴していただいている。利用者の希望や状態に応じた柔軟な支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が自己決定しやすい様に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬についてはケースファイルに薬情報を添付し変更があれば引き継ぎノートなどで留意事項を伝えているようにしている。服薬に関しては一人一人に合った支援を行い確実に内服された確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人に合った役割(掃除、調理、洗濯)をお願いし一緒にすることで毎日の生活に張りを持って頂ける様にしている。外出等での気分転換も常に図れる様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人のその日の希望があれば散歩・買い物等に出掛けている。遠方には後日検討し希望に沿えるように努力している。家族の方にも協力して頂き外出支援をお願いしている。	車椅子を利用しての外出など短時間でも散歩の支援を行っている。利用者の希望や状況に応じて家族の協力を得ながらドライブや買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として管理させて頂いているが、本人の希望に応じてその都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望があればその都度対応している。また、本人持ちの携帯電話を持参されている方に対しては充電方法や操作方法等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品や花などを飾っている。共有スペースは心地よく過ごせるように掃除を徹底し清潔を保っている。	掃除が行き届き清潔感がある。ゆったりとしたスペースも確保され、不快を感じないよう職員はゆったりと関わっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が食卓を囲んだり、ソファやホールで思い思いに過ごして頂ける様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については本人と家族で自宅で使用おられた馴染みの家具などを持って来て頂き、過ごしやすい環境作りをしている。	利用者の行動を理解し、安全に過ごせるよう家具の配置など配慮しながら環境を整えている。好みの人形などを持参し、利用者らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を継続していくために、必要箇所には目印をつけ、個々の状態に応じた支援を行っている。		